

仮橋開放時の幅員確保について

東京土木支店真栄会(土木部会)



生田建設株式会社

工 事 概 要

延長572m , 場所打擁壁工(U型擁壁)9ブロック・
(重力式擁壁)208m³ , 場所打函渠工 (標準内空
W8.5×H5.5 2連) 10ブロック , カルバート工
(雨水貯留施設) 4箇所 , 仮橋・仮栈橋工5箇所 ,
切梁・腹起し工 1,450t

本事業により、4車線の道路ネットワークを形成し、一般
国道463号や主要地方道さいたま鴻巣線の慢性的な交通混
雑や渋滞の緩和を図ります。

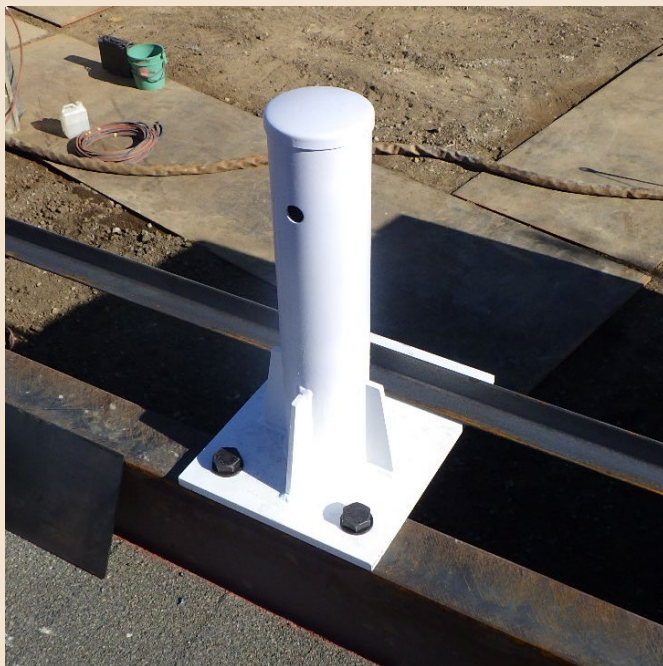
動機・ねらい

当初設計では仮橋両側に置きガードレールを設置する計画となっていたが、現道より路肩が狭くなり、**歩行者や自転車の通行に支障がきたす恐れ**があった。

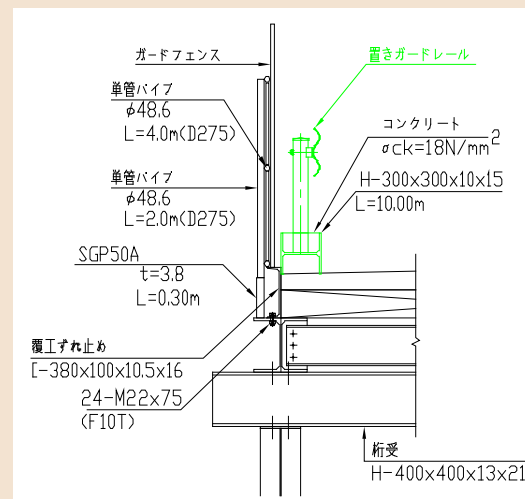
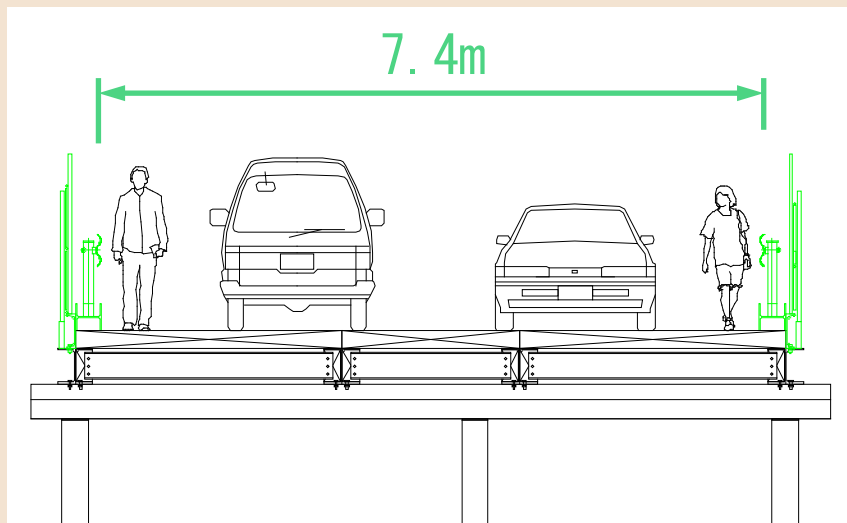
限られた幅員の中で、少しでも路肩を広く確保する目的で『**覆工ずれ止め一体型ガードレール**』を考案した。

検討結果

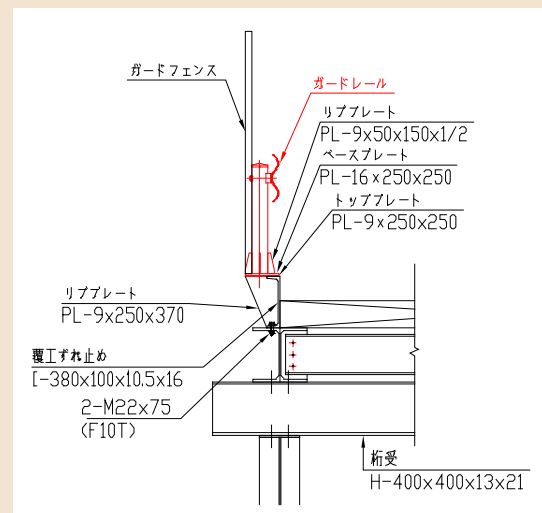
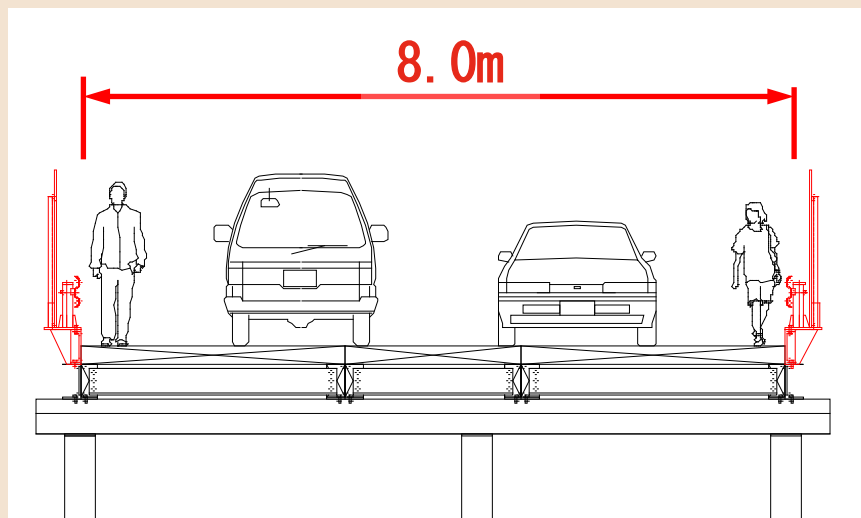
仮橋の覆工桁と覆工ずれ止め鋼材に現場溶接して取り付けが出来るよう、ガードレール支柱付の架台を工場にて制作し、仮橋設置時に搬入して設置を行った。



当初設計



改善後



効果・感想

- ① 仮橋前後の道路との幅員を合わせることが出来たので、歩行者の通行を阻害することなく開放できた。
- ② 仮橋開放後は特段苦情もなく地域自治会からの感謝もあり、施主からの評価を受けることができた。

